



第9回特別展 楽器の原点がここにある 2001. 3. 24 ~ 5. 6

「オセアニアの楽器」開催中!!



水太鼓 (バブアニューギニア)

3月24日(土)から特別展「オセアニアの楽器」が始まりました。パプアニューギニアの楽器を中心に、オーストラリアやその他の島々の楽器約100点と彫像、装飾品、写真など総計約200点を展示しています。

オセアニアは、オーストラリア大陸とニュージーランド、ニューギニア島、そして何千もの島々をあわせた広大な地域で、南太平洋のほぼ全域と北太平洋の一部を占めています。人々の身体的特徴や文化の違いによって、ニューギニア島からフィジーにいたるメラネシア、その北側に広がるミクロネシア、ハワイやイースター島、ニュージーランドを含み最も広い面積のポリネシア、そしてオーストラリア大陸の4区域に分かれます。先住民の祖先は何万年も前に東南アジアから移動してきた人たちで、その後それぞれの地域や島で独特の文化が育ち伝承されてきました。

音楽や楽器は概して素朴で、楽器にはどことなくユーモラスな精霊の顔が彫刻されていたりします。これは楽器が神や精霊と結びついたものとして生活の中で重要な位置をしめていることを表した、まさに音楽と楽器の原点といえるものでしょう。

展示品には、パプアニューギニア奥地の村々で成人儀礼に使われる聖なる竹笛や水太鼓、世界最大級のヴァヌアツの割れ目太鼓、国立民族学博物館(大阪府吹田市)所蔵のジョージブラウン・コレクションからニューアイルランド島のヌヌート(手のひらで木をこすって鳴らす儀式用の楽器)、野外民族博物館リトルワールド(愛知県犬山市)所蔵の美しい鳥の彫刻のついたパプアニューギニアの竹笛など、貴重資料も数多く含まれています。また楽器博物館が、1999年に行ったパプアニューギニア現地調査の写真や映像も紹介しています。

楽器の原点を見つける展覧会「オセアニアの楽器」にどうぞお越し下さい。

楽器博物館5年の歩み

その4 (最終回) ～サービスの充実とこれからの課題～

平成8年9月のアジア・アフリカ展示室オープンは大きな反響を呼び、多くの民族芸術ファンをひきつけました。

翌9年には3つの大きな活動が始まりました。

第1は来館者への解説ガイドです。毎月第3日曜日を除くすべての日曜日に、午前と午後それぞれ30分ずつ、職員が展示品の解説をしながら見学者と一緒に館内を回るといふものです。「展示室ガイドツアー」と名づけられたこの活動は、実際に展示品を演奏する場面を加えるなどして徐々に充実し、今では楽器博物館のすばらしい来館者サービスのひとつとなっています。



展示室ガイドツアー

第2は国外での現地楽器文化調査の実施です。楽器博物館はアジア・アフリカ展示室をオープンしたものの、展示室で紹介できる演奏風景の写真や映像資料を持っていませんでした。またちょうどその頃、楽器の収集計画として4ヶ年計画でアジア、アメリカ、オセアニア、アフリカの楽器を順に収集することが決まっていた。そこで、楽器の収集も兼ねて、楽器使用状況の調査、ならびに写真や映像の収集のために、現地に学芸員が赴くことになりました。

平成9年はモンゴル国、10年はメキシコ、グアテマラ、11年はパプアニューギニア、そして12年はタンザニアと調査を実施し、毎回100点程度の楽器と多くの写真、映像資料を収集しました。その成果は毎年特別展や、常設展示室レファレンス・ルームのVTRで公開しています。

第3は収蔵品の演奏によるCDの制作です。音の図録としてCDは楽器博物館には必然的に必要な物です。テーマには19世紀のピアノと金管楽器を選び、それぞれ1枚のCDを作ることにしました。ピアノは博物館オープン記念に作ったイェルク・テム

ス氏演奏の記念CDを再編集し「フォルテ・ピアノの開花」というタイトルで制作しました。金管楽器は収蔵品から演奏可能なものを選び、タイトル「19世紀のサロン」として新たに録音しました。おかげさまで、両CDとも売れ行き好調で残りわずかになっています。

続く平成10年3月には入館者30万人達成。4月には浜松市の音楽の街づくり政策の一環として「浜松市アクトシティ音楽院」が開設され、これまで楽器博物館で企画実施していたレクチャーコンサートと講座が音楽院に移管されました。また楽器文化の国内調査第2期として、浜松市のピアノ産業史と三遠南信地域の村歌舞伎の調査を開始しました。

開館5年目に入った平成11年は、さらなる来館者サービスとして、ヘッドホン・スタンドの解説板に点字シートを貼付、12月には郵政省関連のマルチメディア・パイロットタウン構想の一環で「パソコン楽器ミュージアム」を展示室の一角に開設しました。内容は「楽器データベース」「サウンドツアー」「楽器博物館ホームページ」の3コースで、特にサウンドツアーの世界の楽器を使った作曲コーナーは子供たちに大人気です。

そして6年目の平成12年。8月には入館者50万人を達成。当初の資料収集計画も完遂間近となり、博物館の存在も全国に知られ、貴重な楽器の寄贈も年々増えてきました。外部研究者の利用も多くなっています。

今後は、ますますの来館者サービスの充実はもちろんですが、博物館本来の仕事である収蔵資料の研究とその成果の公開発信が大きな課題となっています。これを克服してこそ、浜松市が世界に誇りうる楽器博物館が誕生するものと思います。(K.S)



パソコン楽器ミュージアム

移動楽器博物館「わくわく楽器ランド」

～1年を振り返って～



世界の楽器を並べてみると

もっと多くの子供たちに、世界中の楽器を体験してもらいたい、そして、楽器を通して世界中の人々の暮らしや考え方を知ってもらいたいという願いのもと、今年度から移動楽器博物館「わくわく楽器ランド」を開催しました。

これは、小学校（毎年市内十校程度が対象）の多目的教室等に、展示室を三日間程度開設するものです。展示室内には、世界中の楽器を並べて、類似点や相違点を探る「みる（世界の楽器を並べてみると）」コーナー、目には見えない音の伝わり方や、音の生まれるしくみを体感することができる「さわる（音と楽器の科学館）」コーナー、合い言葉（それぞれの地域のリズムを言葉で表現する、例：ラテンのリズム♪♪♪♪は「ポタージュすきすき）」を使って、世界の楽器を演奏体験する「さわる（世界の楽器に挑戦!）」コーナーなどが設置され、子供たちはいくつかの約束事を守りながら、自由に体験できるようになっています。

- 開催した学校の先生方からは、
- ・楽器のたどってきた道を、実物の楽器を使って、地域規模で捉えることができた。
 - ・何か揺れると音が出ることや、揺れの大きさが音の大きさが変わることを体で感じる事ができた。
 - ・楽器を演奏する時に、合い言葉があったので、より関心を持って音を出すことができた。

などのご意見をいただきました。

世界の様々な楽器に触れることによって、世界の多様な文化を知り、国際理解への関心を高めることができれば、というのが我々の大きな目標です。

また、楽器にかかわる事柄には、音楽のみならず、理科、社会、図工、算数、国語など、すべての教科の要素が含まれており、各教科の横断的な学習活動や、総合的な学習の時間に、移動楽器博物館を一つのプログラムとして利用してもらおうとも考えています。

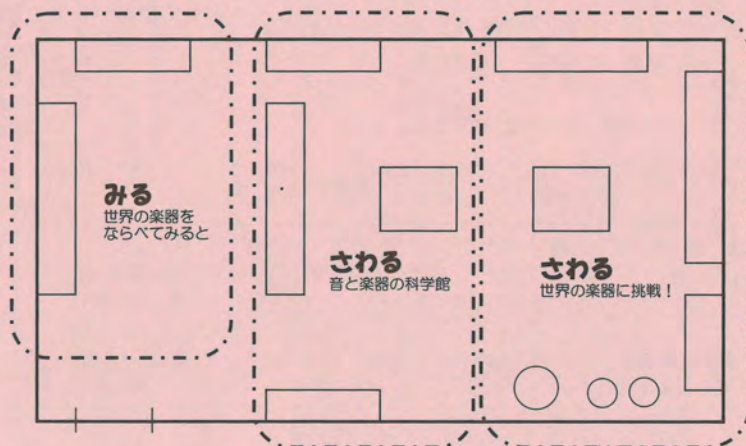
この事業を通して、学校と浜松市楽器博物館との間に深い協力関係を築き、浜松市ならではの学社融合が実現するよう、研鑽を重ねていきたいと思えます。



世界の楽器に挑戦!

・平成12年度実施校一覧 計11校

笠井小学校	5/31～6/3	村櫛小学校	6/5～6/7
篠原小学校	6/15～6/17	神久呂小学校	6/27～6/29
中ノ町小学校	7/5～7/7	初生小学校	9/20～9/22
砂丘小学校	10/10～10/12	都田南小学校	11/6～11/8
芳川小学校	11/29～12/1	豊西小学校	1/15～1/17
北庄内小学校	2/26～2/28		



展示レイアウト例

■ 新着資料展終わる

1/27 (土) ~ 2/18 (日)



楽器博物館では、博物館活動の充実のため計画的に資料の収集を行ってきました。開館して丸5年、口コミやマスコミの報道で全国の皆様に少しずつ存在を知っていただけるようになったこともあり、貴重な楽器を寄贈していただく機会も増えてきました。

平成12年も多くの楽器や資料をご寄贈いただき、約70点を『新着資料展』にて一般公開しました。会場には3,881人の方々を訪れました。

出展資料の中には、楽器製造史の点からも興味深い資料がありました。例えば、日本のヴァイオリン製作の草創期を担う鈴木政吉が製作した、なんとギター！(上写真左)。ラコートというフランスのメーカーの19世紀ギターをモデルに製作した楽器です。また、戦後、ホテルオークラの会長として活躍した大倉喜七郎草案のオークラウロ(尺八にフルートのようなキー装置を付け半音を出しやすくした楽器)などです。

◆ 博物館日誌

12/23~1/8

企画展「楽器ワンダーランド」

1/2 ミュージアムサロン「新春の調べ」

講師：大谷康(尺八奏者)、佐々木睦美(箏奏者)

1/7.14.21.28

展示室ガイドツアー

1/21 ミュージアムサロン「中阮」

講師：陳淑珍(中阮奏者)

1/27~2/18

新着資料展

1/28 報告会 浜松楽器風土記「ピアノづくりの変遷・3」

講師：村瀬正巳(当館職員)

2/4 浜松古楽フェスタ

2/4.11.18.25

展示室ガイドツアー

2/18 ミュージアムサロン「リコーダーいろいろ」

講師：嶋和彦(当館職員)

2/24 報告会 三遠南信芸能調査「文化としての郷土歌舞伎」

講師：嶋和彦(当館職員)

3/4.11.18.25

展示室ガイドツアー

3/18 ミュージアムサロン「オーボエの魅力」

講師：村瀬正巳(当館職員)

3/24~5/6

特別展「オセアニアの楽器」

◆ これからの催し物案内

展示室ガイドツアー

4/1.8.15.22.29 5/6.13.20.27 6/3.10.17.24

催し物により変更もあります 展示品の解説

ミュージアムサロン

4/29「チェンバロミニコンサート」14:00 講師：小玉宏

5/5「馬頭琴ミニコンサート」14:00 講師：リポー

6/10 未定

時間は開催日により異なりますのでお問い合わせ下さい

展示品の演奏

毎日 10:00~16:00の間で一時間毎

展示品の演奏デモンストレーション

特別展「オセアニアの楽器」

3/24(土)~5/6(日)

オセアニアの楽器と音楽文化を紹介します。

見学には特別展観覧料が必要です。

特別展講演会

「神と精霊の伝説~パプアニューギニアの森から~」

4/14(土) 14:00 研修交流センター

講師：豊田由貴夫(立教大学教授)

特別展ミニコンサート

「オーストラリア・アポリジニのディジェリドゥー」

5/3(木) 13:45, 14:45 楽器博物館地階ステージ

出演：HIDE190(イダキ<ディジェリドゥー>奏者)

レクチャーコンサート

「ウード・琵琶・リュート~ある楽器の東西変化~」

5/19(土) 14:00 研修交流センター

大人1,000円・高校生以下500円

出演：常味祐司(ウード奏者)他

レクチャーコンサート

「ハーディ・ガーディとミュゼット~フランス宮廷と田園の宴~」

6/17(日) 14:00 研修交流センター

大人1,000円・高校生以下500円

出演：ラ・ノース・シャンペートル

レクチャーコンサート

「ハンドベル~天使からの贈り物~」

7/14(土) 14:00 研修交流センター

大人1,000円・高校生以下500円

出演：チェンバー・リンキング・ソロイスト

企画展「おととあそぼう」

7/20(金)~8/31(金)

楽器の仕組みを体験しながら学べます

常設展観覧料のみでご覧いただけます 楽器博物館地階展示室

企画展楽器づくりワークショップ

8/4(土)「リコーダーの巻」講師：徳永隆二

8/11(土)「ハーモニカの巻」講師：神谷嘉孝

8/25(土)「サンザの巻」講師：ロビン・ロイド

◆ 12月~2月の観覧者数

	12月	1月	2月	3ヶ月の合計	開館からの累計
大人	2,315	3,536	3,834	9,685	406,330
中人	32	64	84	180	15,251
小人	458	511	448	1,417	91,338
幼児	140	317	257	714	23,320
計	2,945	4,428	4,623	11,996	536,239

利 用 案 内

開館時間：火曜日~日曜日 午前9:30~午後5:00

休館日：月曜日(祝日にあたる時は開館)、祝日の翌日、年末年始、

館内整理日(4/25、5/30、6/27、7/18、9/5、

10/31、11/28、12/5、19)

常設展観覧料：個人 団体(20人以上) 団体(80人以上)

大人(大学生以上) 400円 320円 240円

中人(高校生) 200円 160円 120円

小人(小・中学生) 100円 80円 60円

※館内には、お手荷物の持ち込みはできません。

浜松市楽器博物館だより

平成13年3月31日発行

No.23

編集 浜松市楽器博物館

〒430-7790 静岡県浜松市板屋町108-1

T E L. 053-451-1128

F A X. 053-451-1129

URL: <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/gakki/>

gaku@gakki.city.hamamatsu.shizuoka.jp

印刷 株式会社シバプリント